

「後期高齢者医療制度」のお知らせ

Vol.3 保険証の一斉更新及び保険料額のお知らせについて

1 保険証の更新について

◎ 8月1日から保険証が変わります（新しい保険証は **ブルー色** です）



現在お使いの後期高齢者医療制度の保険証は、7月31日で有効期限が切れまので、8月1日からは新しい保険証をお使いいただくこととなります。（申請手続きは不要です。）

新しい保険証は、7月下旬に送付します。8月になっても保険証が届かなかったり、保険証の記載事項に誤りがあったりした場合は、住民福祉課までご連絡ください。

2 平成28年度の保険料について

◎ 7月中旬に、年間保険料額の通知書をお送りいたします。

保険料額の計算方法

○ 『均等割額』 + 『所得割額』 が年間保険料額となります。（賦課限度額は57万円）

【均等割額】 1人あたり年間35,300円となります。

【所得割額】 平成27年中の総所得金額等をもとに算定します。

所得割額 = [平成27年中の総所得金額等 - 基礎控除33万円] × 7.15%

3 保険料の納付方法について

平成28年度の保険料の納付方法・納付時期

◆ 4月の年金からすでに納めていただいている方【特別徴収】

4月	6月	8月	10月	12月	2月
仮徴収			本徴収		
年金	年金	年金	年金	年金	年金

4・6・8月の納付額・・・平成28年度の年間保険料額が確定していないため、仮に算定された保険料額を納めていただきます。

10・12・2月の納付額・・・確定した年間保険料額から、4・6・8月の納付額を差し引いた残額を10・12・2月の年金から納めていただきます。

◆ 7月から納付書または口座振替で納めていただく方【普通徴収】

4月～6月	7月	8月	9月	10月～2月	3月
納付なし	納付書 または 口座振替				

確定した年間保険料額を、平成28年7月～平成29年3月に分けて納めていただきます。
月々納めていただく保険料額は、通知書に記載されていますので、ご確認ください。

後期高齢者医療制度に関する問い合わせ先 住民福祉課福祉保険班 ☎ 64-1471

全国旅館連合会永年勤続表彰受賞



小山雄司温泉旅館組合長（大内渕）が、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会より永年勤続表彰を受賞しました。村の温泉旅館組合長6年、県連合会理事を7年勤め、長年にわたり旅館業界の指導者として組合活動の推進に鋭意努力されました。

小山さんは、「村や県の観光に対して、地道に取り組んできたことが認められて嬉しい」と喜びを語ってくれました。

県食生活推進員功労者表彰受賞



この度、伊東ヤイ子さん（下関）が県食生活推進員協議会より功労者表彰を受賞しました。伊東さんは、会発足当初から長年にわたり、地域の健康づくりに大きく貢献されました。

また、食生活推進員として10年以上活動された2人の方が優良会員表彰を受賞しました。

【優良会員表彰受賞者】

阿部ムツ子さん(大島)、金 弥枝さん(辰田新)

すずか 長野涼夏さんが「言の葉大賞」優秀賞受賞！

「言葉の力」を感じるときをテーマに大切な人への思いや強く感じた気持ちを自分の言葉で綴る「言の葉大賞」の高校生部門で、長野涼夏さん（18歳・上土沢）の作品が優秀賞に選ばれました。「言の葉大賞」は、800字の文字を通して「書く」「伝える」を学ぶことで、思考力、表現力、創造力を養い、コミュニケーション能力の向上を目指した教育支援事業です。全国から寄せられた高校生部門3678編の中から受賞。長野さんは高校在学中に応募したもので、現在、北海道で酪農研修中。今回、受賞作品の全文を紹介します。

優秀賞 高校生部門

担任の先生

両親は共働きで、祖母と二人で過ごすことが多かった。姉が一人いたが歳が離れていて、話もうまく合わなかった。小学校の家庭訪問も祖母が対応し、授業参観も両親が来てくれたことは一度もない。それでも、仕方ないことだと納得していた。

小学校6年生のとき、授業参観のテーマが「両親への感謝の手紙を書こう」だった。私は困った。当日に手紙を読んで渡す、というものでクラスの人が楽しそうに書く姿がうらやましかった。私には書いても読んで渡す相手がいない。そのときの担任の先生は白紙のままの手紙を提出した私に対して何も言わなかった。家族の誰にも参観日の日にちは教えていなかった。伝えるだけ無駄だとあきらめていた。そして当日、生徒が手紙を読み、親が泣き、教室は感動でつつまれていた。相変わらず、私の席の後ろには誰もいない。もうすぐ私の番逃げてしまおうかと考えていたとき教室の扉が開いた。入ってきたのは私の祖母だった。何も伝えていないのになぜ、と視線で訴えた。祖母は笑って、

「担任の先生から連絡があったのよ。遅れてごめんね」と言っていた。担任の先生も笑っていた。そこから、白紙の手紙を持って祖母への感謝の気持ちを伝えた。いつも側にいてくれたこと、わがままを笑って許してくれたこと、今日参観日に来てくれたこと。思わず涙があふれた。このときはじめて、本当は淋しかったことに気が付いた。

後から担任の先生に呼ばれ、言われた。「我慢しなくていい。淋しかったんだらう。あなたを愛していない人なんていないのだから。また笑ってがんばらう」その言葉にどれだけ救われたのだらうか。家族からも愛されていないのだと、心のどこかで思っていた。次は絶対に、両親を授業参観に呼ぼうと決めた。